

全国で年間約 12 万頭の猫と 約 4 万頭の犬が殺処分されています。

その最大の原因は、飼いきれない数の猫や犬が生まれていることです。飼える以上の命を生み出しては殺している社会が、安心できる住みよい社会といえるのでしょうか。殺処分される命を減らすには、まず、生まれてくる命の数を減らさなくてはなりません。そのためには、飼い主一人ひとりが、命に責任を持ち、安易にふやさないことが必要です。

また、決まった飼い主のいないいわゆるノラ猫やノラ犬は、病気やケガ、交通事故、心ない人からの虐待など様々な危険にさらされ、短い命を終えています。人が責任を持って飼うべき生き物が、暖かい家もなく悲惨な状態で死んでいく社会は、子どもたちにどんな影響を与えるのでしょうか。

不幸な猫や犬を生み出さないため、「ふやさない」ことは、生き物への愛なのです。

■全国の猫と犬の引取り数と処分数

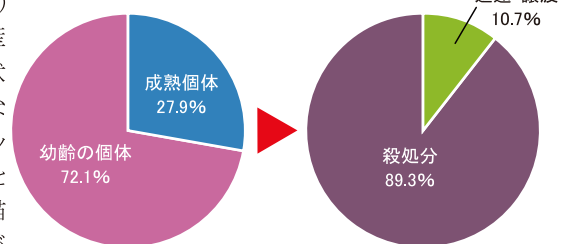
	引取り数		処分数	
	成熟個体	幼齢の個体	返還・譲渡数	殺処分数
猫	38,492	99,253	14,858	123,420
犬	58,439	13,204	33,269	38,447

(平成 24 年度・環境省)

猫の現状

自治体に引き取られる猫は年間約 14 万頭。その 72% (約 10 万頭) が子猫で、ほとんどは飼い主のいない猫 (ノラ猫) や外飼いの猫が産んだものです。引き取られる子猫の数はあまりにも多く、また健康状態もよくないため、大半が命を絶たれています。人が世話をしていないノラ猫は、栄養状態が悪く、妊娠・出産率は高くありませんが、キャットフードなど高栄養の餌を与えられると、多くの子猫を産み育てることができます。つまり、猫を不妊去勢しないで屋外で飼うことや、ノラ猫に安易に餌を与えることが、殺処分される猫をふやしているというのが現状です。

■猫の引取り(137,745頭)

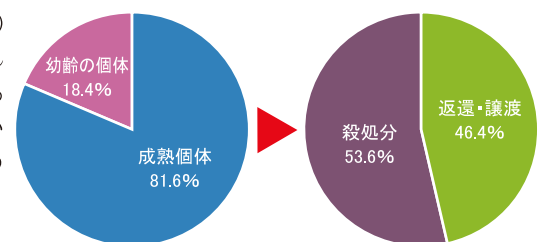


(平成 24 年度・環境省)

犬の現状

自治体に引き取られる犬は年間約 7.2 万頭。その 18% (約 1.3 万頭) が子犬で、ほとんどは飼い主がいる犬が産んだものです。引き取られた子犬の一部は新たな飼い主に譲渡されますが、多くは飼ってくれる人がいないという理由で命を絶たれています。つまり、犬を飼っているいわゆる「犬好き」が、飼いきれない犬を生ませて殺しているというのが現状です。

■犬の引取り(71,643頭)



(平成 24 年度・環境省)

ウサギの現状

全国の多くの学校で子どもたちの教育のためにウサギが飼われていますが、オス、メスが同じケージ内で飼われ、無制限に繁殖を繰り返しているなど、適切な管理がされていない例が少なくありません。適切に飼われている学校では正しい動物の扱い方と命を慈しむ心を子どもたちに教える機会となっています。しかし、一部の学校では教員に正しい飼養管理の知識が不足しているために、過密な環境や不適切な世話でウサギが苦しみ、不必要に命が失われる場面を子どもたちに見せてしまっているというのが現状です。

きちんと世話ができる数以上の動物をかかえてしまうと、動物も人も不幸にしてしまいます。

過密な環境はそれだけで動物にとって強いストレスになるだけでなく、適切な世話が行き届かず糞尿などの汚物が放置され、衛生状態は悪化し、病気も発生しやすく発見も遅れます。人と動物の共通感染症の発生のおそれもあり、悪臭や異常な鳴き声などで周囲の環境を悪化させて近隣住民にも大きな迷惑になります。飼い主本人やその家族にとっても、時間的、経済的負担は大きく、生活の質は悪化します。多すぎる動物をかかえることは、動物も人も不幸にしてしまうのです。

「殺処分されるのはかわいそう」と多くの猫や犬を集めて

飼う人がいますが、そのほとんどは、結局は世話が行き届かずにひどい環境で飼うことになり、動物を苦しみ、近隣に迷惑を及ぼし、自身の生活も破壊してしまいます。「かわいそう」という気持ちがあっても多くの「かわいそうな動物」を生みだしているのです。そういう場所に飼いきれない猫や犬を置いていく飼い主もいますが、結局は動物を苦しみ、他人に迷惑をかける結果となることを忘れてはいけません。

きちんと飼える数以上にはふやさないことが、人も動物も幸せになるために必要なことなのです。